

アメリカ・オハイオ州立大学
交換留学報告書

静岡県立大学
経営情報学部 経営情報学科 4年

はじめに

私は2024年1月から8月までの7か月間、オハイオ州立大学へ留学をしていた。ALP (American Language Program) という、英語が外国語である生徒のために開講されているプログラムに、春学期と夏学期の2学期参加していた。春学期は、ALP 以外にもダンスサークルでの活動や大学側が主催するイベントに積極的に参加していた。夏学期は、夏休み期間なこともあり、サークルやイベントが激減したが、ALP に加えて学部生用の授業を聴講していた。

総合的な感想

オハイオで過ごしていた7か月間は、今まで生きてきた人生の中で一番楽しかった期間だと言える。しかし英語学習に関しては、改善の余地があったと言える。

特に春学期は、アメリカに到着したばかりで、毎日新しいことを知るような期間だった。大学内に住んでいたのも、イベントに参加しやすく、友人を作りやすい環境だったことに感謝している。留学前に「毎日なんでもいいからなにかを頑張った、と言えるようにする」という目標を設定した。勉強でも遊びでもなんでもいいので、とにかく1日1つ以上は頑張ったことを言えるようにした。それを心掛けて行動していたら、外に出て知らない人としゃべることに恐怖心を覚えなくなり、人と関わるのが好きになっていた。学校の宿題や友人と遊ぶことで忙しい毎日を送っていたが、日本にいた頃よりも圧倒的に充実していたし、アクティブに行動している自分自身のことを好きになれていた。

そして夏学期は春学期よりも落ち着いた毎日を送っていた。なぜなら、夏学期は夏休み期間であるので、基本授業は無く、大学内や大学周辺はまるでゴーストタウンのように静まり返っていたからだ。当然、春学期に仲良くなれた友人たちも帰省などでオハイオを離れてしまい、簡単に遊ぶことができなくなっていた。そこで暇な時間を活用できないかと思い、ALP 以外にも開講されている授業がいくつかあったので、授業聴講をさせてもらった。教授に直接連絡を取れば、意外にも授業聴講を許可してくれることが多く、自分から掛け合ってみるものの重要性を知った。それらの授業はネイティブの生徒たちが受講している授業なので、ALP とはかけ離れた高いレベルの英語が飛び交っていた。ネイティブ同士のディスカッションについていくことは遥かに難しく、悔しい思いをした。英語の自己学習に関しても、英語検定のスコアの伸びに悩むことが多かった。帰国日が近づいてくるほど、英語力の未熟さに焦り、日本に帰りたいけど恥ずかしくて帰れないという気持ちがあった。

アドバイス

今回の留学を振り返って、あの時の自分にアドバイスしたいことがある。留学前の自分

は、留学するのだから生活するだけで自然と英語力が身に就くだろう、という自信があった。そんなことはなく、英語力を伸ばしたいのなら机に向かう勉強は必須である。実際に私は、英語力が足りないことにより現地の人との約束を泣く泣く諦めて、机に向かう時間を増やすようにした時期もあった。そういった悔しい思いをしない為にも、留学前に英語力を固めておくことをアドバイスしたい。

もう一つアドバイスしたいことは、英語力を英語検定のスコアのみで測ろうとするな&へこんだ時の対処法を知る、ということ。留学中、Regular Student（学部生）になるためTOEFLなどの目標点数を取るために、検定試験を定期的に受けていた。特に3.4月は遊びを諦めて死ぬ気で勉強をしたが、スコアは留学前とほとんど変わらなかった。スコアを見たとき、今までの努力と犠牲を全否定されたような気がして、自分は英語向いていないかも、と初めての挫折を味わった。それからの夏学期は、英語学習に身が入らない日々が続いた。しかし、友人との会話中では、うまく伝わらない時が多かったが、うまく話せた時も少なからずあった。このことから、失敗の数だけ成功の数も相対的に増えることに気づき、とにかく場数を踏んでいこうと思った。そうすることで、成功エピソードのバラエティーを増やし、自分自身のモチベーションを上げて、楽しく英語学習に取り組めるようにした。

<写真>

オハイオ州立大学の校舎（レンガでできていてきれいです）



アメリカンフットボールの試合（OSU はアメフトがかなり強いようです）



スクールダンスパーティーの時（左から私、ジェニー、エラ、ウィズリーです。仲良し四人組でした笑）

